

---

# change of Ring

小田一奈

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

change of Ring

### 【コード】

NO333B

### 【作者名】

小田一奈

### 【あらすじ】

事故で最愛の人を亡くした。葬儀場で指輪の交換をした。本当は結婚式場でしたかったことなのに…

(前書き)

この作品はショート・ショートになります。

短編です。

喪失感っていうのは、こんなに苦しいものだったやろか？

無くしたオモチャにはそれほどまでに感じないものなのに。

亡くしたのが君だからこんなにも苦しいんやろか…。

今でもまだはつきり覚えてる。

まだ君に依存しているんやと思う。なんていうか…体の力が抜けて心にポツカリと大きな穴が開いたみたいで。

なんにもする気が起きひんで一日中ずっと、ボーッとしてんねや。

そん中で思うこと。

ただ、ただ、君に逢いたい。朝、身体を揺さぶられて目をさます。目の前には愛しい彼女の顔があった。

まだ寝ぼけてる目を擦りながらカーテンを開けた。

外はどしゃ降りの雨だった。

テーブルの上には朝ごはんが既に出来上がって、おいしそうだった。

ご飯を食べている時、彼女は何やら着替え始めた。

『どっか行くんか？』ってまるで留守番する子供みたいに尋ねた。

彼女は『ちよっとコンビニまで』って言った。

こんな天気なのに？大丈夫やるか？

『何、買いに行くん』

『レポート用紙。提出期限明日なんだ』

『そうか。なんやったら、俺も一緒に行くで？』

俺はパンを頬張り牛乳を流し込んだ。

『大丈夫だよ。すぐそこだしね。』

寝癖の付いた俺の頭を二回撫でて彼女は笑った。

『そか。気いつけてな。』

お気に入りの赤い傘を広げて家を出た。

『行ってらっしゃい』

『じゃあ、行ってきます。』

俺と彼女、最後の会話。彼女は5分もかからん場所へ辿り着くことは出来へんかった。

遅いなあ…思て何度も携帯にかけたのに留守電や。

やっと電話が通じたと思たら『警察です』なんて言いよる。

冗談か…思て聞いてたら『ひき逃げ』だの『病院』だの不吉な単語ばかり聞こえてきよる。

そんな中でもはつきり聞き取れたんが…

『即死でした。』

これだけや。

視界の悪い道を走っていたトラックが彼女をひいたらしい。

内容なんてなんも耳に入つてへん。

気が付いたら病院に向かって走つてた。彼女は病院に居た。

> 霊安室<なんて看板が下げられてる部屋に寝とつた。

白い肌はアザだらけやった。

かすり傷もぎょうさん…

暗い部屋で彼女は寝とった。

『さ、帰るで。』

返事なんてあるわけない。でも、返事を待たなきゃいけない気がした。

『ほら、帰るよ。』

掴んだ彼女の腕は氷より冷たかった。俺の体温が残酷に思えた。

なんや、死んだんか？

まだ18年しか生きてへんやないか。

あん時、俺と一緒にいたら良かったんやな。

そしたら 守れたかもしれん。

…もう、遅いな。卸したての喪服に身を包んだ。

自分の時間は止まっているのに周りはどんどん変わってく。

まさか喪服を卸すのが君のためだなんて。

考えてなかったで。

思いもせえへんかったよ。

上から下まで真っ黒や。

君の好きだった色は赤やのに。

堪忍な。今はその色を身に付けることは出来へんのや。

だから、白と黒で堪忍してや。

棺の中で横たわる君の左薬指に俺の指輪をはめた。

やっぱりぶかぶかやな。

我慢してや。

そして君の指輪は今、俺の指に光ってるで。

指輪の交換。ホンマは結婚式場でしたかったな。

ここは葬儀場…場違いにも程があるな。

『おかしな話やね』

一人で苦笑した。

そして同時にこぼれる大粒の涙。

『病めるときも健やかなるときも愛することを誓います』

冷たい冷たい君に誓いのキスをした。

(後書き)

読んで下さりありがとうございます。

感謝いたします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0333b/>

---

change of Ring

2011年1月29日02時54分発行